

令和7年度第2回滝沢市総合計画審議会 会議録

(令和7年12月19日(金) 14時00分～16時00分)

(ビッググループ滝沢小ホール)

【進行】企画政策課長

定刻となりましたので、ただいまから令和7年度第2回滝沢市総合計画審議会を開会いたします。本日の出席委員は19人中16人であり、過半数が出席しております。よって、滝沢市総合計画審議会条例第5条第2項の規定により、会議が成立することを御報告いたします。それでは、審議会の開会にあたりまして、滝沢市長武田哲より御挨拶を申し上げます。

【挨拶】市長

本日はお忙しい中、第2回滝沢市総合計画審議会に御出席を賜りまして、ありがとうございます。そして、皆様におかれましては日頃より滝沢市の市政運営全般にわたりまして、様々な形で御支援御協力を賜っていることに、心より感謝を申し上げます。

そして1つ、悲しいお知らせをしなければなりません。総合計画審議会委員であった、岩手西北医師会の高橋先生がお亡くなりになりました。先生には地域医療について、あるいは総合計画について、様々な角度から御意見を頂戴してまいりました。その言葉をしっかりと胸に受け止め、総合計画を推進してまいりたいと思います。御冥福をお祈り申し上げます。

本日の議事は大きく2点ございます。まず1点目は「令和6年度市長方針及び各政策方針の評価について」でございます。振り返りますと、令和6年度は第2次滝沢市総合計画がスタートした年でもあり「つながる滝沢」「こどもまんなか滝沢」「いきいき滝沢」「まなぶ滝沢」「はたらく滝沢」の5つの重要な視点に基づいて市政運営をしてまいりました。そして、こども家庭センターの設置、そして大学との未来共創事業などに新たに取組んだ年度でもありました。また18年ぶりとなる市のホームページの全面リニューアルにも取り組むことができました。このように魅力ある情報の発信、そして若者の活躍の推進を両輪として事業を展開してきたところであります。本日はこれらの取組が当初の目標に対しどのような成果を上げたのか、皆様に評価、そして御審議を賜りたいと思っています。

そして2点目の審議事項であります。まずは、「第2期滝沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略実績報告書について」でございます。人口減少への対応や地域活力の維持は、本市にとっても喫緊の課題であります。地方創生の実現に向けたこれまでの具体的な取組の実績について、御報告をさせていただきます。

本日は委員の皆様にも専門的な知見、あるいは様々な角度から忌憚のない御意見を頂戴できればと思っておりますので、本日はどうぞよろしくお願いたします。

【進行】企画政策課長

それでは、ただいまから委員の紹介をさせていただきたいと思いますが、お手元の名簿による御紹介とさせていただきますことを御容赦いただければと思います。なお、先ほど

令和7年度第2回滝沢市総合計画審議会 会議録

市長の方からもお話がありました、岩手西北医師会の前会長でありました高橋委員の御逝去に伴いまして、岩手西北医師会からの推薦委員については現在欠員となっております。また市側出席者につきましては、市長、副市長、教育長、以下名簿のと通りの出席となっております。

続きまして本日の議事についてであります。本日の議事は「令和6年度市長方針及び各政策方針の評価について」及び「第2期滝沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略実績報告について」の2つとなります。

それでは早速議事に進ませていただきたいと思いますので、ここからの進行は、総合計画審議会長の丸山委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【進行】丸山委員

それでは本日もどうぞよろしくお願いいたします。議事に入ります。まず1つ目の議事、「令和6年度市長方針及び各政策方針の評価について」最初に事務局から説明をお願いします。どうぞ。

【説明】企画政策課長

それでは1つ目の議事、「令和6年度市長方針及び各政策方針の評価について」御説明します。皆様お手元に資料1を御準備いただければと思います。

議事のうち「令和6年度市長方針の評価」については、市長より御説明いたします。なお、「令和6年度各政策方針の評価」につきましては、事前に資料を配布し、内容を御確認いただいておりますことから、皆様の御審議の時間を十分に確保するため、本日の説明については割愛とさせていただきます。

それでは市長、市長方針の評価の説明をお願いいたします。

【説明】市長

令和6年度は第2次滝沢市総合計画がスタートした年でした。令和5年度に市民の皆さんや各団体の皆さんから様々な意見を頂戴してこの総合計画を決めることができたことは大きな進展であったと感じております。

そして私が市長になってから、一番気にしているのは出生数であります。令和5年度の岩手県の出生数では1桁台の自治体が3つありました。そのような状況を見て、今後岩手県の地方自治、あるいは地方が果たす役割はどうなるのかが大きな課題だと捉えたところ です。

そして県が毎月発表している出生数に関する月例報告を加算していくと令和6年度の岩手県の出生数は盛岡市が1,483人。その次は北上市が480人台で500人に届きません。その次は奥州市で430数人です。その次が花巻市で382人です。その次が一関市で同じく300人台。そして滝沢市は6番目で300人を切ってしまい、275人です。

しかし上位の市町村を見ると、どこも合併した市であるので単独で市制移行した滝沢市でこれだけの出生数なのは1つの誇りではないかと感じています。

令和7年度第2回滝沢市総合計画審議会 会議録

ただし、令和6年度の岩手県全体の出生数は5,000人を切ってしまい、4,900人でした。その分布を見ると盛岡だけで1,483人。隣の滝沢市は270人台。そして矢巾町と紫波町が160人台。足してみると岩手県内で半分以上の子供たちが盛岡市周辺で生まれている。勢いがあると言われている北上でさえ480人台です。そのような状況をふまえると、盛岡広域の市町村が連携しながらこれからの活力をつくっていくことが一番大事ではないかなと思っています。

その中でもやはり滝沢市は子供たちや若い世代が多い。将来的には滝沢市は岩手県内で平均年齢が一番若い市として展開していける。そういった特徴と盛岡大学、岩手県立大学の2つの大学に約4,000人の学生が通っている事実を今後どう生かしていくか。その学生の皆さんにこれからの岩手のあり方、あるいは自分の生まれた故郷と、そして地域をどうつくっていくかといったことをいろんな場面で一緒になって考えたいと思っています。

令和6年度の評価については、まず1番目に「第2次滝沢市総合計画が目指す状態の実現に向けた事務事業の推進に関する評価」ですが、これは一定程度進展していると評価いたしました。11指標中8指標で令和6年度の目標値を達成したことは1つの大きな進展だと捉えており、総合計画がスタートしたこの年、各種事業をしっかりと行いながら、これからの滝沢をどうつくっていくかという目標を達成できたのではないかと考えております。

次に、5つの重要な視点に関する事務事業の重点的な推進に関する評価についてです。

まず「つながる滝沢」に関しても、一定程度進展していると見ています。しかし、住民自治日本一を掲げてきた本市にとって、この部分は今後非常に難しいかじ取りになると感じています。市としては、住民協働による住民自治の深化を目指し、市内11の地域づくり懇談会が主体となって策定した地域別計画の実現を後押しすることが役割であると考え、取り組んでまいりました。重点事業として「滝沢地域づくり活動推進補助事業」を実施し、資金的な支援も行いながら、地域と共に地域づくりについて考えていきたいという思いで進めてきました。現在工事が進んでいる中心拠点商業地区の開発事業については、河川の切り回しなど支援をした結果、令和6年度は造成工事がある程度完了できたと感じております。

「こどもまんなか滝沢」についても、進展しているという評価です。重点事業として「こども家庭総合支援事業」を実施し、全ての妊産婦、子育て世帯、子どもへの包括的な相談支援を行う「こども家庭センター」を新たに設置して、悩みを相談できる体制ができたことを広く周知しました。核家族化が進み、妊娠、出産、子育てにおいて一人で悩む方が増えています。携帯電話やAIを使って悩みの解決策を探し、自分で子育てをしているという話も聞きますが、やはり悩みを聞いてもらえる体制を整えることが大事ではないかと思っています。保健事業では両親学級に新たにお父さんにも参加していただきました。また、多くの要望があった「子ども医療費給付事業」については、所得制限を撤廃し、給付対象者を拡大できたことが大きな進展だったと思います。今後も家庭や地域と一体となって子育て事業に取り組んでまいります。

「いきいき滝沢」も一定程度進展していると評価しました。子どもから高齢者まで、障

がいの有無に関わらず、誰もが自分らしく健康で安心して暮らせる地域づくりや社会の醸成を目指してまいりました。特に「重層的支援体制整備事業」によって、多機関と連携した相談支援体制を構築できたことは大きな進展でした。健康づくり事業では「クアオルト健康ウォーキング」のコース整備やガイド育成を進められたことが大きな進展であり、高齢者支援では「介護予防普及啓発事業」を通じて、運動機能向上教室やいきいき百歳体操などを各地域で行うことができ、介護予防ボランティアの育成にも取り組めた点は良かったと考えております。

「まなぶ滝沢」については、岩手県立大学と盛岡大学の2つの大学が立地するという市の強みを生かし、学びの機会の創出として「リカレント教育推進事業」に新たに取り組み、盛岡大学の先生方から様々な講義をいただきました。特に発達障がいなどに関する講座は受講者が多く、アンケートには悩みがびっしりと書かれており、また受講したいという声も多く寄せられました。これは我々にとっても大きな気づきとなりました。いくつになっても学びたいという気持ちを持ち続けていただくために、この事業を推進できたと考えています。また、重点事業の「小中学校校舎等改修事業」については、今後も計画的に行っていきたいと考えています。

「はたらく滝沢」についても、一定程度進展していると評価しています。「ICT産業集積拠点整備事業」としてイノベーションパークの拡張に向けた協議を進めています。東京での岩手県立大学卒業生との交流では、岩手に帰って起業したい、あるいは事業展開したいという声を多く伺っており、まずはその受け皿となる下地を作りたいと考えています。これまで約30社のIT関連企業に来ていただいておりますが、今後はパーク拡張に合わせて、これらの企業と親和性の高い企業の誘致を図りたいと思います。また、盛岡大学や岩手県立大学の学部の特性、特に福祉系の学生が活躍できるよう、福祉系事業者の展開も視野に入れていきます。これは未来へ向けた投資であり、お金を稼ぎ、将来的に安定した税収や若者の地元定着を目指して事業展開をしてまいります。

最後に、「事務事業にかかる展開手法に関する評価」についてですが、これに関しても一定程度進展していると評価しました。第2次総合計画を推進する両輪である「魅力ある情報の発信」と「若者の活躍推進」については関連する2つの室を設けて事業展開を図りました。「魅力ある情報の発信」については、18年ぶりに市ホームページを全面リニューアルし、スマートフォン対応や外国語対応を行っています。小岩井農場が国の重要文化財に指定され、スマートフォンで交通手段を検索して訪れるアジア系の方々などが増えていきますので、市の認知度向上や外国の方々への情報発信に今後も努めていきたいと思っています。また、市民の方々とかしこまらずに対話する機会としてタウンミーティングを開催し、何より「たきざわ自分ごと化会議」を実施できたことは、新たな人の呼び込みや市民の興味を惹きつけることができた事業だったと思います。自分が滝沢市のために何ができるかを一緒に考えられたことは大きな進展でした。「若者の活躍推進」については、「滝沢ミライプロジェクト」での首都圏交流事業などを実施し、若者の意見や市民の皆さんの意見を取り入れながら令和6年度の市政経営を行ってまいりました。市長方針の評価に関する説明は以上になります。

【進行】企画政策課長

市長ありがとうございました。先にお話しさせていただきましたとおり、6年度の各政策方針の評価に関する説明については割愛させていただきますので、以上で事務局からの説明を終わらせていただきたいと思います。

【進行】会長

ありがとうございました。それではただいま説明のあった令和6年度の市長方針、それから説明は割愛されておりますけれども、各政策方針の評価や評価方法含め、御質問あるいは御意見を申し上げます。

【意見・質問】委員

(1)の「つながる滝沢」は一定程度進展しているという評価になっております。しかし最後2行では「地域活動の担い手不足や高齢化は看過できない課題であり、今後も地域コミュニティのあり方について地域と連携しながら負担軽減を目指す必要があると認識しています」とあります。私も全く同感であり自治会連合会及び単位自治会としても同様の課題・問題を捉えております。今後は行政と連携を図りながらこの問題に取り組んでまいりたいと考えていますのでよろしく願いいたします。

【回答】市民環境部長

やはり自治会の負担軽減というのが長年の課題でございます。担い手不足、高齢化というのもそのとおりでございます。まずはその負担をどうしていくか、特に会長さんが委員を推薦するという負担もあると思うので、各種委員の統合など、変えられるものは変えるというは視点も持ちながら今検討を進めているところです。そして今一度自治会に役割について自治会連合会の皆様とも話し合いながら考えたいと思っております。

【回答】市長

これまで要望書をいただくなど、自治会連合会の皆様からはこの件に関して様々な視点から要望や提言をいただいているところであります。市として各単位自治会の皆さんのお話を伺いながら今後の自治会運営の負担軽減について、取り組んでまいりたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

【意見・質問】委員

先ほどの別の委員の方がお話しされた自治会が抱える課題については、私もそのとおりだと認識しております。では「具体的にどうしていくのか」という点が最大の問題だろうと考えます。現状、各自治会や地域と行政との関係が必ずしもかみ合っておらず、十分な力が発揮されていない不思議な関係にあるように感じます。この際、自治会と行政の関係を一度白紙に戻すくらいの気持ちで、他自治体の事例なども参考にしながら、どうすれば

地域活動が活性化しスムーズに進むのか、大卒から検討し直すべきではないかと常々思っております。また、少子高齢化についてですが、世の中を見渡すと、統廃合を経て立派に建設された学校施設が、生徒がおらずそのまま残っている事例が多くあり、過去の政策の反動が出ていると感じます。本市でもこの問題を真剣に捉え、対策を講じなければなりません。

昨日、葛巻町の関係者から「年間の出生数が22人だった」という話を聞き、大変な数字が出ていると感じました。滝沢市はまだ恵まれているとはいえ、決して他人事ではなく、皆で考えていかなければならない問題です。

さらに私が懸念しているのは、高齢化、特に独り暮らしの増加です。滝沢市ではこれが非常に多い。先日、社会福祉協議会の理事会で話題になりましたが、歳末たすけあいの義援金対象となるような、支援を必要とする独り暮らしの高齢者が、昨年比べて倍増しています。今後も増え続けることが予想される中、単に手当てをして終わりにするのではなく、弱い立場にある独り暮らしの方々を地域や自治体はどう守っていくのか、真剣に考える必要があります。

最後に学生についてです。市内には多くの学生がいますが、彼らは在学中の数年間、学校があるから滝沢に来ているだけで、必ずしも滝沢が好きで来ているわけではありません。重要なのは、卒業後に「滝沢で働きたい」と思った時に、働く場所があるかどうかです。就職先がなければ、学生との交流も一時的なもので終わってしまいます。その点を踏まえた対応をお願いしたいと思います。

【回答】市長

まず自治会役員についてですが、2年ごとの輪番制などを導入した自治会の中には、「役員を経験して良かった。地域の皆さんの活動を知るきっかけになった」と話してくださる会長さんもいらっしゃいます。役員交代を通じて多くの方々が地域課題に触れ、解決に向けて動いていることはいいことではないかと持っています。成熟社会において何に投資する成長戦略を描くか、国の交付金などの活用も検討しつつ、本市に必要なものを考えてまいります。

人口減少下で活力を維持するには、本市単独ではなく、盛岡市、雫石町、八幡平市など周辺市町村と連携し、広域で岩手の未来をつくっていくことが最も重要であると考えます。

大学生については、市の事業参加を機に、卒業後も地元に戻って消防団や自治会活動に参加してくれる事例が出てきています。盛岡の企業に就職した場合でも、地域への恩返しとして活動に参加する若者が生まれています。学生に様々な経験の場を提供し、共に地域づくりを考えることが重要です。

独り暮らしの高齢者対策については、自治会や民生委員の皆様のお力をお借りしながら見守りを進めていきたいと思いますが、基本となるのは地域の方々がお隣の様子に関心を持つという「人と人とのつながり」です。そうした地域の見守り機能を後押しできるよう、今後も取り組んでまいります。

【意見・質問】委員

今の話題に関連してですが、実情としては2年ごとの改選があっても、役員は何十年も同じメンバーが務めている地域があります。自治会役員を引受けると、地域づくりの活動やいきいきサロン、さらには老人クラブまで背負わなければならない現状があります。私自身も会計を14年ほど務めております。監査があるとはいえ、1人が長期間務めるのは好ましくないと思いますが、なり手がいないのが実情です。役員を引き受けても、病気を抱えると後任が見つからないまま、名前だけ残って活動できない状況が続くこともあります。

役員が固定化されているため、行事の参加者も同じ顔ぶれとなり、地域の中での広がりが見られません。私の地域ではPTA世代を入れることで情報交流ができていた良い面もありますが、全体としては厳しい状況です。民生委員などの各種委員の推薦を自治会だけに頼るのは限界があるのではないのでしょうか。

もう1点、健康づくり事業についてですが、病気の予防や早期発見の取組は評価できません。しかし、現に病気や障がいを感じている方々は、「健康」が前面に出すぎると「自分たちは違う」と引け目を感じてしまうことがあります。予防も大切ですが、病気を持っていることが悪だと思わせないような雰囲気作りもしていただきたいと思っております。

【回答】市民環境部長

自治会役員については、おっしゃるとおりなり手不足のために交代が進まない現状があると考えております。市長が申しました委員や役員の割り当ても、いきなり変えようとしても無理が生じますので、準備をしながら少しずつ進めなければならないと感じております。

委員からもありましたが、組織のあり方を改めて考え直す時期に来ているのだと思います。自治会だけ、行政だけでは上手くいきませんので、一緒に考えてまいりたいと思っております。

【回答】健康こども部長

健診の大切さについての御質問ですが、まずは病気予防の責務が健康づくり課にある一方で、現在はがんや脳卒中、心臓病などで亡くなる方が多く、病気を抱えた方が増えている実情もございます。そうした方々が生活の質を向上できるよう、身体面だけでなく心の健康や、日常生活を穏やかに過ごせるような相談も合わせて行っていきたいと考えます。

また糖尿病などの重症化予防も重要ですので、健診等でもそちらを進めてまいりたいと思っております。

【回答】市長

自治会のことに関しては、各自治会の実情を踏まえ、寄り添いながら一緒に考えてまいりたいと思っております。健康づくりについても、病気になっても引きこもらずに外に出ていけるよう、あるいは悩みにも寄り添えるよう努めてまいります。また不安なことがあれば相談できるということの周知にも努めてまいります。

【意見・質問】委員

市長のお話の中にあった「一定程度進展している」「進展している」といった評価の文言は、具体的な数字に基づくものではなく、市長がこの1年間の様子を見て感じた主観的な評価だという理解でよろしいでしょうか。

また、5ページ目の評価について、2番の(1)にBや3番にAといった評価があります。「概ね達成した」「取り組みの継続」「課題あり」といった言葉がありますが、これらはどのような根拠に基づき判定されたのか教えていただきたいです。

さらに、6ページ目の所管施策別事業費実績表にあるナンバーの「1 1 1 1」が示す意味についても教えてください。

中身を読めば評価の内容自体は納得できるのですが、その根拠を知ることによってさらに理解が深まると思ひまして質問いたします。

【回答】企画政策課長

政策方針書のA B C評価の根拠について御説明します。こちらについては、各部が所管する施策や事業の積上げである「実行計画」がこの下にあり、それらの進捗状況を踏まえて政策を総括し、最終的に部長級がAは「達成」、Bは「概ね達成」、Cは「一部達成」、Dは「達成できず」の4段階で主観的に評価を記入しております。

また、6ページ目のナンバー「1 1 1 1」については、申し訳ございません。こちらは評価システムの仕様上、枝番として入る数値であり、特段の意味はございません。

【意見・質問】委員

2番のA B C Dの4段階評価については分かりましたが、3番の「取り組みの継続」や4番の「課題あり」というところはこういった評価区分になりますか。

【回答】事務局

事務的なことですので私から説明します。3番の項目については3段階評価で、Aが「取り組みの継続」、Bが「取り組みの一部の見直しが必要」、Cが「取り組みの大幅な見直しが必要」となっております。その下の4番(1)については2段階で、A「課題なし」、B「課題あり」として判定し、具体的な内容を記載しております。

補足ですが、各部の所管施策別事業費実績表において記載されているものは、政策に紐づく施策となっています。

【意見・質問】委員

評価の観点について、「概ね達成した」と評価している政策でも4番の「課題あり・なし」の部分が「課題なし」とされておりました。これは本当に「課題なし」でいいのでしょうか。

【回答】経済産業部長

15ページの経済産業部の「課題なし」という捉え方についてです。これまで取り組んできたことを継続的に実施していくという意味で、阻害要因としての課題はないという意味合いで「課題なし」としております。

【意見・質問】委員

15ページを見ると、2番の(1)(2)が「概ね達成」である中で、4番が「課題なし」と書かれることに違和感がありました。「概ね達成」ということは達成していないものもあり課題はあるということではないかと思ってしまったのです。ただ、その下に書かれている内容はこれからの意気込みが伝わる良いものでした。この評価はホームページに掲載され、委員だけでなく他の方も御覧になりますので、市として公開するものは分かりやすく理解しやすいものとしたほうが良いように思います。

【回答】企画政策課長

評価が定量的・定性的なものが混在し分かりにくい点があったかと思います。市長方針や各部長の主観も交えた実感としての評価も含まれております。御指摘の部分については、令和6年度は総合計画の初年度であり、初年度からすべて「達成した」とするのは難しい面がございます。4年間の期間内で達成を目指すところの現時点での評価となります。「課題あり・なし」については事業推進上の支障があるかどうかという判断でございますが、部によって考え方の差異もあり分かりにくい点があったかと思います。表記の仕方については、今後より分かりやすい形で市民の皆様へ説明できるよう検討してまいります。

【進行】会長

「ABC評価」と「日本語の説明」は併記されていると、読み手は両者が連動していると誤解する可能性があるため、注釈を入れるか表現を改めるなど、分かりやすい表現を心掛けられるのがよろしいかと思います。

【意見・質問】委員

4ページ以降の政策方針の評価について伺います。5ページに「各種防災訓練の実施」や「地域の防災に関する事業の実施」等の記述があります。滝沢市には32の単位自治会があり、それぞれ自主防災会がありますが、令和元年には32自治会のうち22の自治会で訓練が実施されていたのが、コロナ禍を経て現在は実施しているのが16から18自治会に減少しています。コロナ禍以降、訓練を実施する自治会が減っている傾向にありますが、行政としては地域防災力の維持向上についてどのようにお考えでしょうか。

【回答】市民環境部長

御指摘のとおり、コロナ禍を挟みまして、自主防災組織の活動や様々な自治会行事が縮小した面がございます。5類移行後は徐々に増え、令和7年度は20自治会を超えること

ろまで戻ってきております。自主防災組織は「地域はみんなで守る」という意識に基づく大切な組織です。地域の安全安心のための結束が、地域力の向上にもつながると考えております。

防災や防犯の観点も含め、先ほどの自治会組織のあり方と同様、行政と自治会が一緒になって地域防災意識の高揚を図っていくことが大切だと考えています。また、理想は全自治会での訓練が実施されることです。有事には基本の繰り返しが大事ですので、より多くの自治会で訓練が実施できるよう、市民環境部としても防災防犯課を中心に支援してまいりたいと思います。

【回答】市長

令和6年度は総合体育館で自衛隊による炊き出し訓練や、スマートリンク（通信衛星）を利用した衛星電話の体験、子ども向けの公衆電話体験などを行いました。また「たきざわあそぼうさい」という事業では、子育て世代をターゲットに他事業と抱き合わせることで2万人以上の来場があったことから、防災意識に関しては各世代へ情報発信ができていると感じております。今後も事業者の皆さんと協力して進めてまいります。

【意見・質問】委員

「まなぶ滝沢」が評価進展していることについてです。市長が就任時に「子どもたちの学力向上のために学習環境を整えることは重要だ」とお話しされたことを記憶しております。校舎改修や放送設備、防犯対策施設について計画的に進められていることを大変嬉しく思います。昨夏、一本木中に熊が出た際、防犯カメラの映像が全国放送されましたが、施設改修だけでなく防犯対策まで行き届いているという良い感想を周りからいただきました。施設が壊れたところを直すだけでなく、防犯まで踏み込んでいることは素晴らしいことだと思っております。

【回答】教育長

国の施策や補助金をうまく取り入れながら、学びの環境整備に取り組んでおります。防犯カメラは不審者対応のための事業でしたが、結果として害獣対策でも注目されることとなりました。今後も子どもたちの安全安心と、学びの環境改善のために力を尽くしてまいります。

【回答】市長

令和6年度に本当に良かったと思っているのは、篠木小学校150周年の時に篠木神楽の披露があったことです。県の無形民俗文化財指定番号1である篠木神楽を、子どもたちが発表できたことは、伝統芸能を絶やすことなく地元の財産として次の世代につなぐ体制を作れた成果だと思っております。防犯カメラについても、熊を検知するシステムがないかなど調査検討を進めてまいりたいと思います。

【進行】会長

他に意見や質問はございますか。ないようですので1つ目の議事「令和6年度市長方針及び各政策方針の評価について」は終了いたします。続きまして2つ目の議事「第2期滝沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略実績報告書について」事務局から説明をお願いします。

【説明】企画政策課長

それでは2つ目の議事、「第2期滝沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略実績報告書について」御説明申し上げます。

資料2の1ページ目を御覧ください。まず総合戦略でございます。これは国のまち・ひと・しごと創生法という少子高齢化対策や東京への人口の一極集中の是正という課題に対応するために国で定めた法律でございます。この法律に基づいて国の総合戦略は策定され、そして各都道府県市町村の地域の実情に応じた地方版総合戦略の策定についても努力義務とされたことによりまして、本市においてもこの「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しているところでございます。

今回第2期の滝沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実績報告ということになります。計画期間は令和2年度から令和6年度の5年間となっております。

資料の2ページ目を御覧ください。総合戦略の体系と評価指標についてです。本市の総合戦略につきましては、国及び県の総合戦略を勘案しつつ、市のまちづくりにおける最上位の計画であります、第1次滝沢市総合計画との関連性の中で体系的に構築されているものであります。国の総合戦略が示す4つの基本目標である、雇用、移住・定住、結婚・出産・子育て、そして地域連携を基本としつつ、市の総合計画の部門別計画から特にこの人口減少対策と地方創生に深く関わる取組を横断的に抽出して再構成してまとめたものが、この滝沢市の総合戦略となっております。また本戦略では第1次総合計画において、各施策が市民の幸福感を育む環境作りを目指しておりましたので、その幸福感を育む3大要素であります、所得・収入、健康、人とのつながり、こちらの考え方に基づいて3つの柱を定めて策定しております。1つ目の施策として「若い世代の新たな雇用の創出」。2つ目の施策として「若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる」。3つ目の施策として「人とのつながりを魅力にした定住、転入、関係人口の拡大と安心して暮らすことができる魅力的な地域の実現」。これら3つの施策を柱として構成しております。

資料3ページ目を御覧ください。この第2期の総合戦略の総括評価でございます。

まず施策の1「若い世代の新たな雇用の創出」でございます。この中で、人口1人当たりの市民所得については令和6年度目標値を達成し、身に付けた知識や技術を仕事や趣味の場で生かせる機会がある人、ここについては令和6年度の目標値は達成できなかったものの、数値が基準値から上昇したところであります。また現在の仕事に満足している人の割合については、令和6年度目標値を達成できず、数値の基準値からの変化もございませんでした。

次に施策2「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」の部分ですが、設定さ

れている3つのK P Iのうち、子どもが大切に育てられていると感じている人の割合については令和6年度目標値を達成できました。しかし他2つの指標、合計特殊出生率、子どもたちが不安なく暮らせると感じる人の割合については、令和6年度の目標値を達成することができず、数値も基準値よりも低下した結果となっております。

また施策3「人とのつながりを魅力にした定住・転入・関係人口の拡大と安心して暮らすことができる魅力的な地域の実現」の部分でございます。住民基本台帳人口、人々が集まり活動できる場があると感じている人の割合、滝沢市で幸せに暮らしている人の割合の全てで、令和6年度の目標値を達成することができず、数値が基準値から低下したという結果となっております。

これら3つの施策の中で、K P I目標の達成は2指標となりましたが、全部で23指標ございます各施策に関連する具体的な取組の部分のK P Iは14項目、全体の約60%で令和6年度の目標値を達成することができました。このことから、社会情勢の影響を受ける施策では数値の低下といった課題も見られましたが、各施策K P Iの上昇を目指す個別の取組については一定の成果が出ていると考えられますので引続きこれら施策K P Iの上昇を目指す個別の取組を進めたいと考えています。

なお4ページ目以降につきましては、それぞれの施策K P Iの動き、そして施策に関する具体的な事業とそのK P Iの状況を一覧にしてまとめてございます。こちらについては、事前に資料配布しておりますので、説明は割愛させていただきたいと思っております。

また最後のページには、企業版ふるさと納税に関する再生計画の評価を参考に添付しております。企業版ふるさと納税というのは総合戦略に位置付けた事業について地域再生計画という計画を個別に作って、そこに企業さんからの寄附金を充てられるという制度でございます。事務局からの説明は以上となります。

【意見・質問】委員

K P Iの設定についてお伺いします。施策それぞれに関して3つずつK P Iを設定されていますが、このK P Iの選択はどういう意図でなされたのでしょうか。

【回答】事務局

第2期総合戦略は令和2年度から6年度までの5年間であり、策定については令和元年度に、この審議会も含め審議いただき決定しました。本戦略は、国・県の方針を踏まえて各市町村で地方創生を進める視点でまとめられるものです。国が示した「雇用の創出」「新しい人の流れ」「結婚・出産・子育ての希望」「地域連携と安心な暮らし」の4点の方針を踏まえ、本市の第1次総合計画の3大要素を反映して施策をまとめました。

指標については、毎年度実施している「幸福度アンケート」の中から施策の進捗にふさわしいものを選定し、客観的な統計数値と組み合わせて設定しております。

【意見・質問】委員

施策K P Iの中でも市民所得や出生率など上位のゴールのような位置付けに見えるもの

もあります。分析の際、他の指標と同列に扱うのか、階層化させるのかといった点も考慮されるのでしょうか。

【回答】企画政策課長

基本的には、総合計画の指標から総合戦略に関連する指標を持ってきました。結果として定性的な指標と定量的な指標が混在している部分については、今いただいた意見を踏まえながら、今後の指標設定や進捗の図り方へ反映させることを検討してまいりたいと思います。

【意見・質問】委員

施策3の関係人口についてですが、現在国の方で「ふるさと住民登録制度」が話題になっています。市長がおっしゃったように関係人口については広域で対応すべきだと感じます。滝沢の大学OBは首都圏にも多くいますし、人口が減少する中で、地域の強みを生かした多様な働き方や生き方をする人たちを関係人口として取り込んでいく視点が重要だと考えますが次期戦略において重点的に取り組むお考えはありますか。

【回答】市長

東京の「ふるさと会」についても、あり方について議論がありましたが、やはり大事な会だということで継続しております。令和6年度には民謡や三味線を披露し大変反響がありました。今後関係人口に関する事業のあり方や事業展開について考えていきたいと思っております。

また、近隣自治体と一緒にできることを研究し、滝沢市の魅力を発信できる体制を整えてまいりたいと思います。

【回答】経済産業部長

若者活躍の視点でも、委員がおっしゃった「ふるさと住民登録制度」は本市の特徴にマッチしていると考えます。人口減少の中、地方と首都圏の若者の関わりをいかにつくるかが重要です。大学生が首都圏で働きながら年2回戻ってきてハッカソンを行うなどの事例もあり、これは関係人口といえます。国の制度を注視し、交流人口の考え方を深めてまいりたいと思います。

【意見・質問】委員

11ページの指標を見るとすべて未達成となっています。何を根拠に目標値を作ったのでしょうか。未達成が並ぶと市民としては不安になります。

【回答】事務局

施策3については、人と人とのつながりに関する施策であることから、計画期間中のコロナ禍の影響が非常に大きかったと考えております。目標自体は行政と市民が共に進める

ことで達成可能な数値として設定しましたが、社会経済情勢の影響を大きく受け、今回は未達成という結果になりました。

【意見・質問】委員

他の委員の方からもお話がありましたが「ふるさと住民登録制度」については国も力を入れているようです。コロナ禍を受けて働き方や住む場所が見直されています。振興局でも管内市町村と関係人口について意見交換しておりますが、首都圏では出社せずフルリモートで働く方も増えており、住む場所が首都圏である必要がなくなっているということです。そのような点を踏まえても、滝沢市が若者の育成や市外とのつながりの維持に取り組んでいるのは大きな強みだと思います。広域連携によって、滝沢の取組が盛岡広域での先駆的な取組となることを期待しております。

【回答】市長

お褒めの言葉をいただき、ありがとうございます。令和6年度から取り組んできたことの一つに、小岩井農場を出発点とするラリーレースがあります。東北で暮らす以上、車は身近な乗り物です。車に関心を持っていただくため、雫石や八幡平と連携して進めております。

本大会は令和9年度ですが、学生の皆さんに運営スタッフとして関わっていただき、就職してからも関わってもらえるような、地元の魅力を体感できるイベントに育てていきたいと考えております。

【意見・質問】委員

10ページに関連して、私の妻の実家に滝沢リンゴやスイカを送りますが、大変喜ばれます。自慢できるものがあるのは良いことですが、時期が限られるので年間を通して提供できるお菓子などの特産品があればさらに良いと思います。

また広報についてですが、なかなか読まれていない現状があると思います。読んでもらうための工夫として、記事に関連する特典付きクロスワードパズルを掲載したり、見出しを工夫したりなど様々な手立てを考える必要があると思います。

【回答】経済産業部長

新規特産品については現在募集を行っている所です。商工会や観光物産協会と連携し、若い農家さん主体で開発を進めており、開発された商品はビッググループなどにもなることとなりますが、いかに周知して買っていただくかが大事ですので、今後も連携を深めてまいります。

【回答】企画総務部長

広報について、若年層の読者率が低いことは課題です。ターゲットに合わせた情報発信や、見出しの工夫についても御指摘を承りました。今後、より関心を持っていただけるよう調査等を進めてまいります。

【進行】会長

他に意見や質問はございますか。無いようですので以上で議事の2「第2期滝沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略実績報告書について」を終了いたします。

これで本日の議事は全て終了いたしましたので進行を事務局にお返しします。

【進行】事務局

丸山委員、議事進行ありがとうございました。最後に次第の「その他」ということで、委員の皆様から何かございますか。今年度の総合計画審議会については今のところ今回が最後ということで予定をしております。それではこれを持ちまして令和7年度第2回滝沢市総合計画審議会を閉会したいと思います。長時間にわたり御審議いただきましてありがとうございました。どうもありがとうございました。